

薬の服用方法

武雄杵島地区薬剤師会

会長 湯川 洋



服用法の種類

薬の服用法は通常大きく分けて、次の6つに分けられます。

食後

食事後約30分の間に服用すること。胃粘膜などを荒らさない様にするため、多くの薬はこれに当てはまります。

食前

食事前約30分の間に服用すること。血糖降下剤や消化管の働きを良くする薬などがこれに当てはまります。

食間

食事中と勘違いされることがありますが、食事をとったあと約2時間後に服用することです。漢方薬などがこれに当てはまります。

食事に関係なく何時間おき

薬の血中濃度を保つために時間を指

定して服薬することです。抗生物質などが当てはまりますが、今は容量を多くして1日1回という抗生物質(抗菌剤)などが多くなっています。

眠前

睡眠前に服用すること。睡眠剤など睡眠を目的にした薬や、緩下剤など効果が出るまでに時間のかかるものなどがこれに当てはまります。

頓服

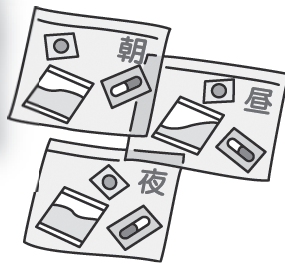
必要な時に服用すること、痛み止めや下痢止めなどがあります。

特殊な飲み方をする薬

骨粗しょう症の薬でビスホスホネート系といわれる薬剤は起床時に1日1回服用します。このタイプの薬は消化管からの吸収が悪いので、空腹時胃が空っぽのときに服用します。食後だとほとんど吸収されません。

また、糖尿病のお薬でファスティング

錠・グルファスト錠などは食事前10分以内に服用します。薬の効果が早い為、食前30分に服用すると低血糖を起す恐れがあります。



服用する際の注意

薬はコップ一杯の水かぬるま湯で服用しましょう。水なしで薬を服用する人がいますが、食道で薬が引っかかり、その部分で溶け、潰瘍かいやうになることがあります。ただし、OD錠といわれる薬は水なしでも服用ができます。水以外で飲む人がいますが、特に牛乳やグレープフルーツジュースと一緒に飲むと効果が強く出たり、弱くなったりするので、避けた方がよいでしょう。

また、鉄剤をお茶で服用するとタン

ニンと結びついて吸収を悪くすると言われている場合があります。薬と食品との飲み合わせもあり、よく知られているのはワルファリンと納豆の飲み合わせ、ワルファリンは血栓を予防する薬で、納豆はビタミンKを多く含んでおり、血を固める作用があります、逆の作用を持っているのでワルファリンの作用を弱めてしまいます。

薬の飲み忘れがあった場合は、思い出した時にすぐに飲みましょう。ただし、次に飲むまでの時間が短ければ服用せず、次の1回分を服用し2回分をまとめて飲まないようにしましょう。

カプセルは空けて飲まないようにしましょう。色々と工夫がされており、効果が弱くなったり、副作用が起こったりする恐れがあります。錠剤もコーティングなどをしているものがあり、砕いて飲まないようにしてください。

薬の服用や一般的な注意を書きましたが、例外などもあります、わからないことがあれば自分で判断せずにお医者さんか薬剤師さんに気軽に相談してください。

